

「笑顔の輪プロジェクト」

東北被災地ボランティアツアー報告

実施日程 2013年9月20日（金）～23日（月）

場所 宮城県石巻市 牡鹿半島沖 金華山黄金山神社

参加者 35名（8回のボランティアツアーにて延べ257名の参加となりました）

主催：福井県市民活動団体「未来ビレッジJAPAN」

協賛：ふくい県民生協

団体としては8回目となる今回のボランティア活動は、一日目に宮城県石巻市の牡鹿半島沖にある離島、金華山黄金山神社の清掃、復旧作業を行い、二日目は、午前中に作業の続きを行い、午後より仙台市にある宮城生協本部 食の復興ネットワークにて震災後のお話を聞かせて頂きました。

今回、メインの活動場所となった金華山は、恐山、出羽三山と並ぶ「奥州三霊場」として有名な、風光明媚な美しい島で、『三年続けてお参りすれば一生お金に困ることはない』と言われており、全国より多くの参拝客が訪れる名所です。

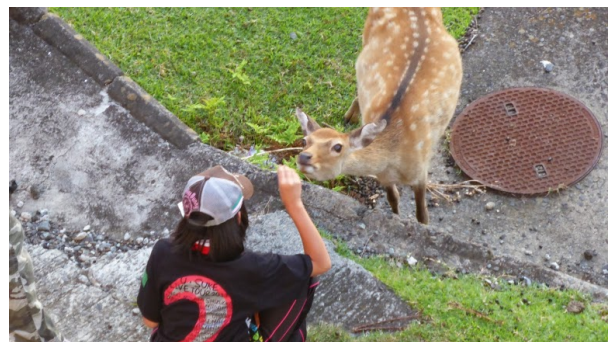
この島は、2011年の東日本大震災の震源地より一番近い島で、地震と同年9月に発生した台風によって、大きな被害を受けました。

未来ビレッジとこの神社とのお付き合いは、2011年の8月に訪れたのが始まりで、当時私たちが初めてボランティアとして現地に入った団体でした。

前回の作業は、被災直後だったこともあり、水道や電気などのライフラインも無い状況の中での、瓦礫や崩れた石碑の撤去、石垣の修復など重労働が中心の苛酷なツアーでしたが、その後の全国からのボランティアや現地の方々の努力により復興が進んでいますが、今なお多くの支援を必要としています。



船から見る、光輝く金華山。お世話になります。



鹿は神の使いとされている鹿。300頭以上生息しているらしい

島内の各地にはその当時の傷跡が深く残っており、まだまだ今後もボランティアを継続していく必要性を感じました。



地震で出来た地割れの痕



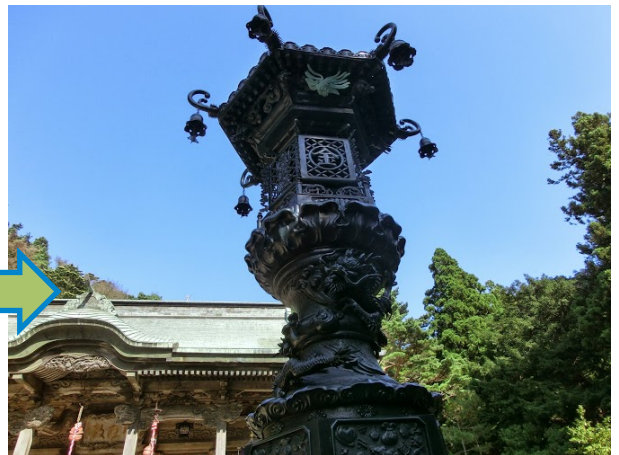
台風で折れた木の枝。未だいたる所で傷跡が残る

今回は、男女各数チームに分け、泥や瓦礫で埋まった側溝の清掃、倒れた灯籠の立て直し、石碑の清掃、催事が執り行われる予定の会場の清掃、道路の補修など、幅広い活動を行いました。

前回2011年の福井からのツアーの際に金華山へ同行された参加者の一人が、その後も自主的に現地に度々入り修復作業を継続されており、その方も現地で合流して今回の現場の指揮を執って頂きました。



震災当時、倒壊していたシンボルの常夜燈



立派に立て直されていました！凄い！

慣れないバスでの車中泊明けでの作業でしたが、神社の職員さんの指示のもと、皆さん協力しながら元気に作業をされていました。



一本一本、心を込めて綺麗にしてくれました



近々開催されるイベント会場の清掃。



本格的な足場を使った灯籠の修復作業。
男性陣の腕の見せどころ



崩れた石垣の復旧作業。土嚢の積み上げや、石の配置など、地味に重労働の作業です。



道路の補修作業。結構力がある作業です。



側溝の清掃作業。綺麗になると気持ち良いです。



灯籠の復旧作業。高度な技術がいる作業でしたが、皆さん、アイデアを出し合い協力していました。



見事灯籠に灯火！感動の瞬間です。



泥で埋まっていた側溝。この作業は滞在中に終わるのか…



最後には見事、水が流れて開通！気持ちいい～！



パワフルなスコップガールたちを中心に頑張りました！！

二日目の早朝には、ご祈祷して頂きました。今年は、12年に一度の巳歳御縁年大祭の年ということで、特別に厳粛な神事を体験させていただくことができました。



2011年10月のツアーの時に、小湊浜に打ち上げられた帆立貝を絵馬にして福井県内で販売し、それを金華山に奉納するという活動を行いました。

その時の絵馬がこちらです。

福井と東北の繋がりが続いている事を実感できて、嬉しく思いました。



福井の皆さんの想いが書かれた、帆立貝の絵馬。

二日目の午後からは金華山を後にして、仙台市内に移動。

宮城県生協さまの本部にて、震災当時の様子や活動の様態などを聞かせて頂きました。



到着が遅れたのにも関わらず、笑顔でお迎え頂き、貴重なお話をしてくださいました。



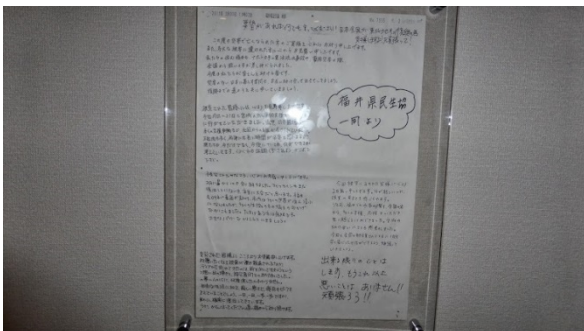
ふくい県民生協が福井県民から預かった手づくりティッシュケースをみやぎ生協に贈呈



被災直後の様子が写真として残されている



震災発生時の、市町村ごとの津波の高さが柱に刻まれていました。改めて恐ろしさを実感



福井より送られたメッセージも飾られている



震災当時の活動の様態をまとめた映像。



毎回、大変お世話になっている牡鹿半島の漁師さんより、立派なタイとヒラメのお土産を頂きました。いつもありがとうございます！



今回は、車中二泊、現地一泊という、負担の大きいスケジュールとなってしまいましたが、参加者のみなさんは、主体的に協力しながら、臨機応変に作業にあたってくださいました。このような素晴らしい方々とツアーを開催できたことに、深く感謝致します。

震災によって、多くの大切なものを失い、私たち日本人は深く傷つきましたが、それがきっかけとなり、東北に行く機会を頂き、これまでのツアーで関わってきた現地のみなさんとの繋がりが生まれました。東北のみなさんとのご縁を大切に、これからも継続して活動を続けて参りたいと思っています。今後とも皆様方のご支援をいただけますようお願い申し上げます。

未来ビレッジJAPAN

<http://fmvn.org/>